

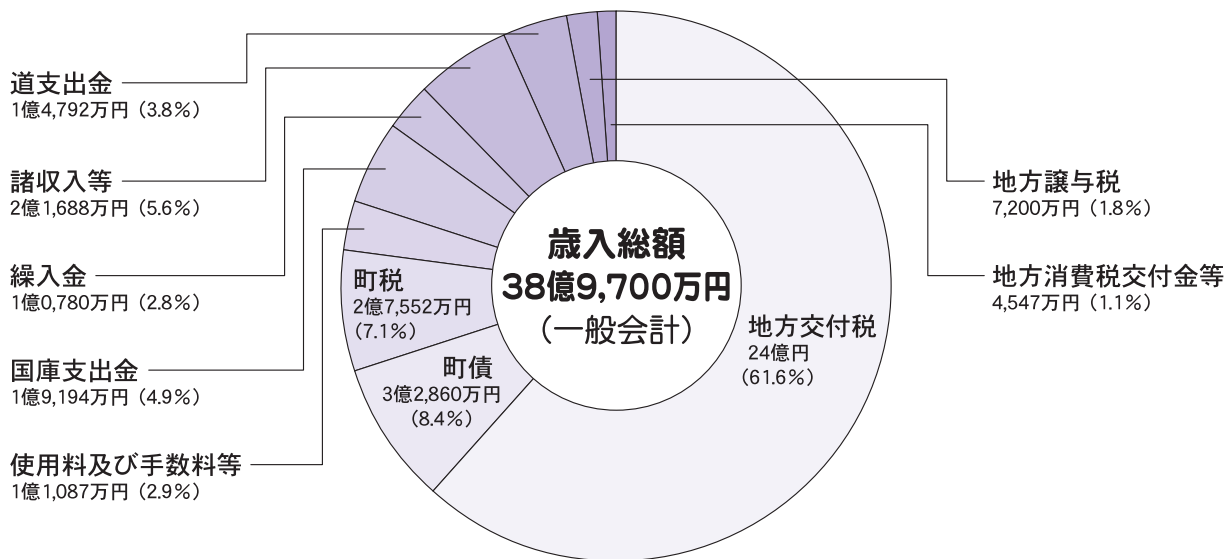
# 平成26年度 まちの

本町の財政は、財政の健全化を示す実質公債費比率や将来負担比率が減少していることから、健全性が維持されていると言えます。しかし、人口の減少や経済状況の悪化による町税の減少、国の財政規律維持に伴う地方交付税の圧縮などにより、財源の確保は厳しさを増しています。一方、住民ニーズの多様化や高齢化に伴う物件費や扶助費、公共施設の老朽化による維持管理経費などは増加傾向にあります。さらに、平成26年度においては、5%から8%への消費増税、電気料の値上げ、燃料単価の高騰などの影響で全体的な経費が増大しました。投資的経費は、簡易水道統合事業や下水道施設の改修事業、橋梁長寿命化対策などインフラ整備を中心に大型事業を実施します。このため、本町の厳しい財政状況を認識し、長期的な視点による持続可能な財政運営を基本に据え、歳入予算をベースに、徹底した経常経費の歳出削減や優先度・緊急度の高い事業の選択と重点化を念頭に予算編成に努めました。

平成26年度は、第5次置戸町総合計画前期計画の最終年となります。総合計画の将来像「自然を

愛し、人にやさしいまち」の実現のため、町民の誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりに努めます。

一般会計は38億9,700万円を計上し、前年度当初予算と比較し、1,500万円、0.4%増の予算となりました。特別会計の中で、簡易水道特別会計は、簡易水道の再編推進事業が5年計画の3年目を迎え、ポンプ場や配水池の新設工事などが始まることから、事業費が大きく増加しました。その他の国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険事業特別会計、介護サービス事業特別会計、下水道特別会計の5会計は、ほぼ前年並みとなりました。この結果、一般会計と6特別会計を合わせた新年度予算の総額は、前年度当初予算比5.5%増の58億2,160万円となりました。



## 歳入のあらまし

町税は、前年度比2.4%減の2億7,552万円としました。地方交付税は、5.7%増の24億円を見込み計上しました。このうち、普通交付税は、3.8%増の22億円を計上し、交付税の振替措置の臨時財政対策債との合計では、2.6%増の23億4,500万円を計上しています。国庫支出金については道路改良工事や橋梁長寿命化修繕工事に係る社会資本整備総合交付金が増加しましたが、地域経済活性化・雇用創出臨時交付金の減少などにより前年度比41.3%減、1億9,194万円を計上しました。道支出金については主に造

林事業が増加したことにより前年度比14.0%増、1億4,792万円を計上しました。財産収入については町有林立木売払収入などの増加により、前年度比35.2%増の5,865万円を計上しました。繰入金については、ふるさと銀河線跡地整備事業に係る基金繰入金が減少したことにより、前年度比9.2%減の1億0,780万円を計上しました。町債は、プライマリーバランスを堅持し、過疎対策事業債など1億8,360万円、臨時財政対策債1億4,500万円を合わせ、3億2,860万円を計上しました。平成26年度末の町債残高は、49億8,919万円を見込んでいます。